

1 主屋 土間台所部

女中部屋組み上げ

主屋の南西隅に女中部屋がある。ここは三畳の小さな部屋であるが、家の正面にあたる位置であるため、南面と西面はさら子の腰板壁（鎧壁）が張られる。写真はその腰板壁の組立状況。

古材に、ねじれや風化があるため、組み上げには苦労している。この他にも細かな造作があるので、しばらくこの部屋の木工事は続く見込みである。



2 主屋 式台玄関の組み上げ

継続的に取りかかっている式台玄関は、床板を張り終え、いよいよ大詰めとなった。写真は段板を仮据えし、段板幅木の取り付き具合を調整しているところである。

床板（写真のブルーシートの下）は雨漏りのため腐朽が酷く、1枚も再用出来なかったが、段板や蹴込板は半数を再用出来た。1月末にはこの式台玄関の木工事がすべて完了した。



3 主屋 取合部

三階手すり組み上げ

三階手すりは風雨にさらされる悪条件から、部材の傷みが激しく、繕いに時間がかかっていた。しかし1月に入って繕いも完了し、いよいよ組み上げに取りかかっている。写真は東側手すりの、手すり子を組み付けている状況。



4 主屋 土居葺き

土居葺き工事も引き続き進めている。主屋は屋根面積が大きく谷や隅背も多いため、土居葺きといえども時間がかかっている。写真は式台玄関の谷を葺いている状況。主屋は来月には、土間台所部大屋根の本瓦葺きに取りかかる予定である。



5 内蔵 置屋根の修理

内蔵は主屋素屋根に取り込み素屋根をかけている。このため、来年度予定の主屋素屋根解体にあたって、内蔵屋根も葺き上がっている必要がある。予算の都合もあって、今年度での屋根葺きを計画し、これにより置屋根の修理を行っている。置屋根は比較的健全だったので、解体は最小限にとどめ、垂木の大半や瓦座は解体しなかった。

1月末には腐朽した垂木を修理し、野地板を張り終えた。



6 内蔵 土屋根面のへら書き

置屋根の野地板を修理のためにめくったところ、土屋根棟際の荒壁面に、へら書き(そう呼ぶべきかどうかは不明)が発見された。「明治十九年十一月」と読み、荒壁がまだ柔らかいうちに棒のようなもので書いたらしい。このほかにも2ヶ所で「手伝 治平」や判読不明の文字が見つかった。内蔵は建築年代が不明であったが、このへら書きで、年代が確定できた。

